

日東精工の製品は生命、健康を守ります。 ヘルスケア製品にも貢献しています

東京ビッグサイトで開催された「ウェアラブルEXPO—装着型デバイス技術展—」を前号で特集しましたが、同時期に医療機器会館(文京区本郷3丁目)では「京都ライフサイエンス・ビジネス商談会」も開催され、当社も、グループ会社日東公進とともに出展しました。今月号は人の健康・命を守る日東精工の製品をご紹介します。

ねじは空気同様、なくなると 生死にかかわってきます

ねじについては「産業の塩」と呼ばれます。

上杉謙信の武田信玄へ「敵に塩を送る」の例を引くまでもなく、塩は人が生きていく上で欠かせないもの。その塩と同じぐらい、現代生活において、ねじは大切なものであるということを表しているのです。

あるいは、ねじを空気にたとえる人もいます。ふだん、誰もが呼吸を意識することはありません。しかし空気(酸素)がなければ1分も経たぬうちに苦しくなって、命にかかわってきます。目に見えなくて、ふだんは意識しないけれど、なくてはならないのが空気です。その空気同様、ふだんあまり目立たないけれど、ねじは、いろいろな分野でなくてはならない存在になっているというわけなのです。

今後ヘルスケア分野で期待される チタンねじ

ですから、もちろん、人の生命に直結している医療・医療、ヘルスケア分野で、ねじが貢献していることはいまでもありません。

当社では最近では人工透析装置向け部品(特殊冷間圧造部品)や血液分析装置、耳式体温計などのねじや部品をつくっています。

また人体に直接ふれるもの、人体の中に使われるものとしては、歯の治療用部品を製造していました。



人工透析装置向け部品

さらに、チタンは軽量で、強度が高く非磁性であり、耐食性、耐熱性、そして人体親和性に優れているので、医療・ヘルスケア分野では今後大いに期待される素材ですが、当社でも、さまざまなリクエストに応えられるよう、現在、チタンねじを研究、開発しています。

医療・医療、ヘルスケアは、ウェアラブル機器をはじめとして、今後期待の分野ですが、その一方でアレルギーを起こさないか、万が一外れたりしたときに臓器などに損傷を与えない形状になっているかなど、留意しなければならない点は多く、新たな製品開発はハードルが高い分野です。そして、たとえば産学連携するなど「協働」で成り立っていく世界です。「京都ライフサイエンス・ビジネス商談会」出展は、情報収集、新たなパートナーづくりの礎となりました。



※京都ライフサイエンス・ビジネス商談会は京都府が厚生労働省の採択を受けて京都市をはじめ「オール京都」体制のもとで推進する「京都次世代産業雇用創出プロジェクト」の一環として実施されました。特別出展や誌上出展を合わせ44社が参加しました。



おかげさまで日東精工は創立77周年!

2月11日、当社は創立77周年を迎え

本社会議室で記念式典を執り行いました。

これまで当社を支えてくださった多くの方々に改めて

感謝を申し上げます。今後もお客様、株主様、

地域社会の皆様、社員ならびにその家族にとって、

大きな実りと喜びがもたらせるよう、

精進、発展させてまいります。

どうぞ、これからもよろしくお願ひ申し上げます。



ホームページをリニューアル 「ねじといえば日東精工」をカタチに!

3月1日、日東精工のホームページをリニューアルしました。「お客様満足度120%」をキーワードに、当社の製品やサービスをこれまで以上に見やすく配置したものです。そして丁寧に説明するだけでなく、ファスナー、産機、制御システムと各事業横断のトータルファスニングソリューションを様々な事例を挙げて紹介しています。

もちろん、株主や投資家などステークホルダーの方には、決算報告・決算短信やプレスリリースなどを、これまで以上に充実させています。

また、この公式ホームページとともに、ニュースレターと連動する形で、「おもしろ、ねじミュージアム」も開設しています。インターネットのニュースポータル「Jキャストニュース」の企業ブログコーナーで展開するもので、当社の直接のお客様でない方にも、ねじの魅力、ねじの大切さなどを発信し



<http://www.nittoseiko.co.jp/>

<http://blog.j-cast.jp/nittoseiko/>

ていくものです。

たとえば、「京菓子資料館」というサイトを老舗・俵屋吉富さんが運営され、ここでは自社商品だけでなく、京菓子全体のことについての情報を提供されています。当社も、ねじのリーディングカンパニーとして、ねじの種類やねじの歴史など、ねじのあれこれを「おもしろ、ねじミュージアム」で提供していくもので、「ねじの代名詞、ねじといえば日東精工」と皆さんに少しでも知っていただければと願っています。

綾部市「永井賞」を受賞

日東精工の協力会社21社で構成する「協同組合日東協力会」は、この度「永井賞」を受賞しました。この賞は綾部市の産業振興に功績のある個人や団体に贈られるもので、同会の雇用創出や技術開発による企業育成、インターンシップなどの多様な活動が評価されたもの。永井賞該当は15年ぶりのものとなりました（写真は贈与式を報じる2月7日付京都新聞）。



官民、多方面で、当社のモノづくりや人づくりが注目・特集されています



みずほ総合研究所が発行する「Fole (フォーレ)」は、企業経営者向けの月刊会員情報誌です。2015年2月号「強い企業の現場力」というコーナーで、当社・日東精工が取り上げられました。

「モノづくりの原点は人づくり」という材木正己社長のコメントをもとに、「オリジナルの人財育成教本」や「職能資格等級制度」「教育単位」などをピ

ックアップ。当社が「こつこつ頑張れる社員をつくる」「学歴にかかわらず平等にチャンスを与える」会社であると、3ページわたって紹介されています。また、日本ねじ工業協会の会報「ねじ」の「トップに聞く」というコーナーにも掲載紹介されたほか (<http://www.fj.or.jp/>で閲覧可能)、今後も、総務省の広報誌などに大臣補佐官 内閣官房による当社の取材記事が掲載される予定です。官民、いろいろな方面から、日東精工のモノづくりや人づくりが注目されています。

総務大臣補佐官 太田直樹様 (右)が地域政策課長 大臣官房の猿渡知之様、大臣官房企画課政策室の小川友彬様とともに1月27日に本社を来訪され、当社材木社長 (左)と対談されました。詳細は別途ご報告予定です。



育児休暇取得100% 「女性が働きやすい職場」と京都新聞に紹介されました



京都新聞、1月18日の経済面で「女性活躍推進」の一例として、当社 石原真理子経理課経理係長が大きく紹介されました。

「女性が少ない」「女性の職域が限られている」といった製造業一般に共通する声を紹介する一方で、一步外に出てみると、参加した社外セミナーなどを通じて、日東精工の優れた面を再認識できたと言及。たとえば「育児休暇取得率100%」などは、社員が働きつづけやすい職場であることの証ですが、こういった事例を紙面で紹介しながら、自分の仕事への抱負、次へつづく人や会社への期待を述べたものです。

※日東精工本社がある綾部市は養蚕業が盛んで繊維のグンゼ株式会社様の発祥の地です。もともと女性が働く場が多いのに対し、男性の雇用創生のためというのも、日東精工創業の理由のひとつでした。女性活躍の土壌がある綾部市で、当社は今後も性別、民族、国籍を超えた多様性(ダイバーシティ)を大切にしていき、働きやすい環境づくりを心がけるものです。

Think(シンク)とは

心の中に形をつくること

ウェブスターの辞書から

3月3日のひな祭りをどう過ご

て解く……。

されましたか？ ひな祭りは別名「桃の節句」ですね。桃には古来、邪気を払うという魔除けの信仰があります。「兆」という字は「きざし」と読むように、未来を予知し魔を防ぐ意味です。だから兆をもつ木、桃は縁起のいい木であり、鬼退治物語の主人公が桃太郎となるのです。桃にあやかり、よからぬすべてのマイナスイメージの鬼退治をして、明るい景気と呼び寄せたいものですね。

そして、いい兆を得るためには雑念を捨てて心を集めることが大切です。英語でいう「Think」でしょうか。「Think」を通して「予知」あるいは「妙案」が浮かぶケースが多いです。アメリカのウェブスターの辞書では「Think」という単語を次のように説明しています。

「Think」を日本語の「考える」「思う」などと単純に置き換えるのは、それこそ「考えもの」です。「心の中に形をつくる」という説明はなかなかシャレしていますし、ハツとさせられますね。確かにイメージをつくって考えると、答えが見つやすいもの。「Think」(考える、推察する)とは、明確なビジョンをもち、具体的な形をつくることと、肝に銘じましょう。

(経営コンサルタント 蒲田春樹)

①心を使う、推理する②心の中に形をつくる③説明する④信ずる、期待する、想像する⑤推理によつ

●また「Think」は「Thank」と同語源です。ものごとを思い、考えることは相手、仲間、顧客、あるいは目に見えない大切なものへの感謝にもつながるのです。ちなみにTHの発音は日本人にとっては少し難しく、シンクが「Sink」になってしまうと、「沈む」「見えなくなる」という意味になってしまいます。沈没する「sink」ではなく、自分や相手を高める「think」であるよう注意しましょう。



ねじのある街・あやべの魅力

800年の伝統をもつ「黒谷」くろたに。
綾部では小学生が和紙を漉いて、
自分の卒業証書をつくりま

昨年「和紙 日本の手漉(てすき) 和紙技術」が「ユネスコの無形文化遺産」に登録されましたが、日東精工本社のある京都府綾部市の北部、舞鶴市との境に位置する黒谷町でも、和紙を漉く伝統技術が継承されています。

「黒谷和紙」はもともと源平の争乱に敗れた平氏の一団が、今の黒谷に身を潜め自生していた楮(こうぞ)を使い、紙を作ったことが始まりとされ、800年の伝統をもつ和紙なのです。

和紙の中でも屈指の美しさと評判になり、黒谷地域は谷氏山家藩の領国であったことから、山家藩の特産品として庇護されるようになりまし。江戸時代には京呉服明治時代以降は養蚕に関する紙が多く作られ、また昭和中期には桂離宮のふすまを製作するなど「黒谷和紙」は内外共に高い品質を評価されてきたのです。

その和紙作りの伝統は脈々と受

け継がれ、黒谷の里は今でも紙漉きの音を聞くことができ、誰もが「紙漉き体験」ができるようになっていきます。

綾部市内のすべての小学校では、毎年「紙漉き体験学習」があり、子供たちが自分の手で漉いたそれぞれの「黒谷和紙」が卒業証書になるのです。まさにオリジナルの卒業証書です。モノとモノをつなげるねじのメーカー、日東精工本社のある綾部市は、もともとモノづくりの伝統があり、今もそれを大事にする街です。



©綾部市観光協会